



図書館でのよりよい 医療情報提供のあり方を考える2025

～科学的根拠に基づく予防・健康づくり～

1

市民自身が信頼できる健康医療情報を 必要とする時代へ

- **健康日本21**：国民が主体的に健康づくりに取りくむための環境整備
- **地域包括ケアシステム**の導入、**障害者が希望する地域生活の実現等**：
市民本人、家族が、適切な情報を得て、自分の生活を選択する
- **患者中心の医療（Patient Centered Care）**、**Shared Decision Making**：
患者自身が自分の生活、志向に沿って、医療への希望を伝えたいと治療を選択し、納得できる医療を受ける

高齢化社会の中で、自分の健康を自分で守り、医療やケアが必要になったときにも、自分の生活を自分で決定するための信頼できる情報が必要

2

課題解決支援としての健康医療情報サービス

• 課題解決型図書館を目指す方向性

図書館をハブとしたネットワークのあり方に関する研究会：

地域の情報ハブとしての図書館（課題解決型の図書館を目指して）

https://www.mext.go.jp/a_menu/shougai/tosho/houkoku/05091401.htm（2005年1月）

• 健康医療情報を扱うサービスの増加（2000年代～）

- 「健康医療情報サービス」としての提供：パスファインダー、闘病記文庫
- 館種を越えた協力によるサービスの実現
- 医療機関と公共図書館が相互に連携した資料の提供 など

（池谷，2018）

3

医療・行政・公共図書館との連携の魅力

「医療機関」から図書館をみると・・・

- 元気な人が生活の中で来る場所・医療に無関心な人も。

⇔ 病気になって初めて訪れる病院

- 小さな町村にも

⇔ がん診療連携拠点病院等の高度医療機関は偏在

- 社会教育施設としての様々な可能性

⇔ 医療機関でできることの限界

「図書館」から医療機関をみると・・・

- 扱いづらい医療情報についての方針を整理する場
- レファレンスで答えられない医療や病気についてのリファラー先の確保



全国775館の公共図書館に
「がん情報ギフト」セットを寄贈



4

図書館でのよりよい医療情報提供のあり方を考える

2023年 ～市民の課題を解決する図書館であるために～

11月2日（木）開催

1. 医療機関・医療者が望む(がん)医療情報提供のあり方

国立がん研究センター がん対策情報センター本部 副本部長
がん情報ギフトプロジェクトリーダー 若尾文彦

2. 公共図書館で医療情報を提供するには～難しさ、工夫、できること～

東邦大学医学メディアセンター大橋病院図書室 牛澤典子

3. 志段味図書館とがん患者会との「みんなのがん教室」の取組について

名古屋市志段味図書館館長 藤坂康司

がん哲学外来メディカルカフェ シャチホコ記念代表 彦田かな子

パネルディスカッション



図書館と医療機関、それぞれの立場・価値観の理解と好事例の共有

5

図書館でのよりよい医療情報提供のあり方を考える 2024

～市民の課題を解決する図書館であるために～

1. 講演会開催趣旨

2. 医療者が知ってほしい、理解してほしい医療情報

・がんの基礎知識、標準医療の考え方、気を付けてほしい情報

国立がん研究センター 若尾文彦

・糖尿病の基礎知識、大事なこと、こんな情報は役立つ

国立国際医療研究センター 井花庸子

・妊娠期・授乳期の妊婦さんが心配する健康問題、薬のこと、知ってほしいこと

国立成育医療研究センター 藤岡泉

図書館、患者・市民の立場からの意見

・「医療情報棚・コーナー」をつくるときに大事にしていること 和歌山県立図書館 松田公利

・患者・市民として、公共図書館に望むこと 認定NPO法人希望の会 轟浩美

3. 総合討論

「がん」だけではなく、さまざまな疾患にかかわる情報を提供するにあたり、
医療・図書館がそれぞれにできることを考える



本日の企画意図

- ・「生活の場」である図書館が提供する情報は、元気な時に見る情報が多数
- ・予防や早期発見、健康づくりは、高齢化社会でますます重要な関心事



- ・“健康によい”情報はあふれるほどあるが、それをそのまま市民に伝えるのが市民の課題解決になる？
- ・医学的には不利益をもたらす可能性のある健康情報を市民が適切に判断できる環境をつくりつつ、図書館の自由、知る権利の保障という重要な理念を守るには？

図書館がさまざまな疾患を予防し、健康の維持に役立つ情報に触れられる重要な拠点となるためには、どのような情報提供が求められるのかを考えること

本日のプログラム

第1部：シンポジウム

知ってほしい、予防や早期発見・健康づくりにつながる健康医療情報

◆医療・研究の立場から(1)～がん～

国立がん研究センター がん対策研究所 予防研究部 予防評価研究室 室長 和田 恵子

◆医療・研究の立場から(2)～循環器の病気～

国立循環器病研究センター 予防医学・疫学情報部 部長 西村 邦宏

◆医療・研究の立場から(3)～認知症～

国立長寿医療研究センター 先端医療開発推進センター長 鈴木 啓介

◆図書館の立場から ～利用者目線に合わせた情報提供と、予防・健康づくりに向けた場づくり～
神奈川県川崎市立宮前図書館 館長 舟田 彰

パネルディスカッション

ご質問については、パネルディスカッションの中で取り上げますので、Q&A機能を使ってお寄せ下さい。

8

本日のプログラム

第2部：がん情報ギフト「結ぶ」事業 実施報告会

- ◆ 塩尻市立図書館
「春休み！えんぱーく まるごとがん教室」
- ◆ 中部国際医療センターがん相談支援センター
「がんに関する講演会 家族ががんになったとき、子どもは？」